

2022年度4月入学  
東北大学大学院経済学研究科  
会計専門職専攻 筆答試験 問題

「会計学」

第1問から第3問に解答しなさい。第1問は答案紙1に、第2問は答案紙2に、第3問は答案紙3に解答しなさい。答案紙の右上に答案紙の番号が記載されている。また、解答はすべて解答欄の範囲内で記述しなさい。

数値の記入にあたっては、必ず3桁ずつ桁区切りをつけること。

※ 試験終了後、答案紙以外は持ち帰ること。

2022年度4月入学

東北大学大学院経済学研究科

会計専門職専攻筆答試験問題「会計学」

第1問 問1、問2の両方に解答しなさい。

問1 以下の文章を読んで、設問1から設問3のすべてに解答しなさい。

企業会計原則 注解4では「企業会計は、予測される将来の危険に備えて慎重な判断に基づく会計処理⑥を行わなければならないが、過度に保守的な会計処理⑦を行うことにより、企業の財政状態及び経営成績の真実な報告をゆがめてはならない。」と定められている。

設問1 下線部①について具体例を2つ挙げなさい。

設問2 下線部②について具体例を1つ挙げなさい。

設問3 下線部①のような会計処理が求められる理由について説明しなさい。

問2 設問1から設問4のすべてに解答しなさい。

設問1 貸借対照表の資産および負債の分類に関する1年基準（ワン・イヤー・ルール）について説明しなさい。

設問2 財務諸表にはその本体だけではなく注記が必要とされる理由について説明しなさい。

設問3 現物出資によって固定資産を受け入れた場合の取得原価の測定方法について説明しなさい。

設問4 「持分法による投資損益」の測定方法と、連結財務諸表における開示方法について説明しなさい。

第2問 [資料1]と[資料2]に基づき、問1から問3のすべてに解答しなさい。計算過程で端数が生じる場合、計算途中では四捨五入せず、最終数値の円未満を切り捨てること。なお、便宜上金額は小さくしてある。税効果会計は適用しない。当期は20X6年12月31日に終了する1年である。

[資料1]

決算整理前残高試算表

20X6年12月31日

(単位：円)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
374,000	現金	
444,000	当座預金	
60,000	受取手形	
51,500	売掛金	
4,000	未収入金	
23,960	売買目的有価証券	
39,000	繰越商品	
120,000	建物	
100,000	備品	
250,000	貸付金	
7,100	満期保有目的債券	
26,900	その他有価証券	
	支払手形	89,300
	買掛金	169,940
	借入金	300,000
	貸倒引当金	1,000
	建物減価償却累計額	36,000
	備品減価償却累計額	25,000
	資本金	320,000
	資本準備金	20,000
	その他資本剰余金	12,000
	利益準備金	15,000
	別途積立金	110,000
	繰越利益剰余金	245,700
	売上	543,000
	固定資産売却益	2,000
380,000	仕入	
1,000	広告宣伝費	
6,000	支払利息	
1,480	火災損失	
1,888,940		1,888,940

[資料2] 決算整理事項

1. 現金¥374,000は、紙幣・硬貨¥362,600と外国紙幣\$100(取得時の為替相場\$1=¥114)が金庫に保管されたものである。決算日の為替相場は\$1=¥118であった。
2. 銀行残高証明書を取り寄せたところ、決算日現在の当座預金勘定残高と銀行残高証明書残高との間に不一致があることが判明した。原因を調べたところ、次の事実が判明した。
  - a. 広告宣伝費の支払いとして作成した小切手の未渡し分が¥1,000あった。
  - b. 仕入先に対する買掛金の支払いとして小切手¥300を振り出していたが、決算日時点で銀行に未呈示であった。
  - c. 現金¥2,300を当座預金口座に預け入れたが、銀行ではそれを翌日の入金として処理していた。
  - d. 得意先から売掛金の回収として¥500が振り込まれていたが、通知が届いていなかったため未記入であった。
  - e. 水道光熱費¥800の自動引き落としがあったが、通知が届いていなかったため未記入であった。
3. 受取手形および売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法によって設定する。また、貸付金(7.参照)の期末残高に対して3%の貸倒引当金を設定する。
4. 期末商品棚卸高は次のとおりである。棚卸減耗損や商品評価損は売上原価の内訳科目として処理する。商品の記帳方法には3分法を適用し、売上原価は仕入勘定で計算する。

帳簿棚卸高	数量 500個	取得原価@ ¥60
実地棚卸高	数量 460個	正味売却価額@ ¥59
5. 固定資産の減価償却を次のとおり行う。記帳方法は間接法によること。なお、過年度の減価償却は適正に実施されている。

建物：残存価額	ゼロ、耐用年数15年、定額法
備品：残存価額	取得原価の10%、耐用年数8年、定率法(償却率25%)
6. 決算日現在、保有する有価証券は次のとおりである。
  - a. 決算日に売買目的有価証券を売却し、売却益¥400を得たが未記帳である。売却代金¥3,400は未収となっている。売却後の売買目的有価証券の時価は¥21,500であった。
  - b. 満期保有目的債券(額面¥8,000)は当期首に取得し、4年後に満期を迎えるものである。決算にあたり、償却原価法(定額法)を適用する。
  - c. その他有価証券(取得原価¥26,900、時価¥28,580)を期末評価する。その他有価証券に対しては、全部純資産直入法を適用する。

7. 貸付金¥250,000は当期首に貸付期間4年の契約で貸し付けたものである。決算にあたって利息¥9,000を繰り延べる。
8. 借入金20X5年1月1日に借入期間5年の契約で調達したものであり、毎月末に分割返済を行っている。決算にあたって支払利息の未払分¥800を計上する。
9. 当期の法人税・住民税は¥12,500、事業税は¥3,600と見積もられた。

### 損 益 計 算 書

自20X6年1月1日 至20X6年12月31日 (単位:円)

I 売上高		543,000
II 売上原価		
期首商品棚卸高	39,000	
当期商品仕入高	380,000	
合計	419,000	
期末商品棚卸高	( )	
差引	( )	
棚卸減耗損	( )	
商品評価損	( )	( ① )
売上総利益		( )
III 販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	( ② )	
水道光熱費	( )	
減価償却費	( ③ )	
貸倒引当金繰入	( )	( )
営業利益		( )
IV 営業外収益		
為替差益	( ④ )	
有価証券運用益	( ⑤ )	
( ⑥ )	225	
受取利息	( )	( )
V 営業外費用		
支払利息	( ⑦ )	
貸倒引当金繰入	( )	( )
経常利益		( )
VI 特別利益		
固定資産売却益		2,000
VII 特別損失		
火災損失		1,480
税引前当期純利益		( )
法人税、住民税及び事業税		( )
当期純利益		( ⑧ )

貸借対照表

20X6年12月31日

(単位：円)

資産の部			負債の部		
I 流動資産			I 流動負債		
現金	( )		支払手形	89,300	
当座預金	( ⑨ )		買掛金	169,940	
受取手形	60,000		( ⑩ )	( )	
売掛金	( )		短期借入金	( ⑪ )	
貸倒引当金	( )	( )	未払法人税等	( )	
未収入金	( ⑫ )		未払費用	( )	
有価証券	( ⑬ )		流動負債合計	( )	
商品	( )		II 固定負債		
( ⑭ ) 収益	( )		長期借入金	( )	
流動資産合計	( )		固定負債合計	( )	
II 固定資産			負債合計		
建物	120,000		純資産の部		
減価償却累計額	( )	( )	I 株主資本		
備品	100,000		資本金	320,000	
減価償却累計額	( )	( )	資本剰余金		
長期貸付金	( )		資本準備金	20,000	
貸倒引当金	( )	( )	其他資本剰余金	12,000	32,000
投資有価証券	( ⑮ )		利益剰余金		
固定資産合計	( )		利益準備金	15,000	
			其他利益剰余金		
			別途積立金	110,000	
			繰越利益剰余金	( )	( )
			株主資本合計	( )	
			II 評価・換算差額等		
			其他有価証券評価差額金	( )	
			評価・換算差額等合計	( )	
			純資産合計	( )	
			負債及び純資産合計	( )	
資産合計	( )				

- 問1 答案紙の銀行勘定調整表を完成させなさい。[ ] には[資料2]2.のa.からe.のうちいずれかの記号を、( ) には金額を記入すること。
- 問2 貸借対照表および損益計算書の空欄①から⑮に当てはまる勘定科目または金額を解答しなさい。金額が負の値のときは、金額の前に△を付すこと。なお、( ) 内の空欄の金額は各自推定すること。
- 問3 [資料2]6.のc.其他有価証券の期末評価に関して、法定実効税率を30%とする税効果会計を適用する場合、当期末に行う決算整理仕訳を示しなさい。

第3問 以下の問1から問3のすべてに解答しなさい。計算過程で端数が生じる場合、計算途中で四捨五入せず、最終数値の円未満を四捨五入すること。

問1 C社では2種類の製品X・Yを製造・販売しており、原価計算方法として組別総合原価計算を採用している。組間接費は機械作業時間に基づき配賦する。以下の〔資料〕に基づき、設問1から設問5のすべてに解答しなさい。

〔資料〕

1. 生産データ

	製品 X	製品 Y
月初仕掛品	500kg (0.3)	800kg (0.7)
当月投入	4,400	6,200
合計	4,900kg	7,000kg
完成品	4,100	6,700
月末仕掛品	800 (0.6)	300 (0.5)
合計	4,900kg	7,000kg

2. 原価データ

	製品 X	製品 Y
月初仕掛品		
直接材料費	424,900 円	537,600 円
加工費	300,000 円	470,400 円
当月投入		
直接材料費	3,471,600 円	4,166,400 円
加工費	1,336,920 円	4,163,600 円
組間接費	1,750,000 円	

注：

1. 生産データ内の（ ）内の数値は加工進捗度を表す。
2. 直接材料はすべて工程の始点で投入される。
3. 月末仕掛品の評価は製品 X は先入先出法、製品 Y は平均法によりそれぞれ行うこと。
4. 機械作業時間は製品 X が 1,800 時間、製品 Y が 3,200 時間であった。

設問1 製品 Y への組間接費配賦額を解答しなさい。

設問2 製品 X の月末仕掛品原価を解答しなさい。

設問3 製品 X の完成品総合原価を解答しなさい。

設問4 製品 Y の月末仕掛品原価を解答しなさい。

設問5 製品 Y の完成品単位原価を解答しなさい。

問2 以下のふたつの語句の両方について簡潔に説明しなさい。

- (1) 品質原価 (cost of quality)
- (2) 必要利益率 (required rate of return)

問3 以下の問題文を読み、設問1から設問4のすべてに解答しなさい。各設問は互いに独立しているものとする。

D社では、製品Aと製品Bの2種類の製品を製造・販売している。現在、次期の予算を編成中であり、その内容は以下の<資料>に要約されている。

<資料>

1. 製品Aの販売価格は2,300円、製品Bの販売価格は3,500円を予定している。
2. 製品Aと製品Bは共通の材料を用いて製造している。製品1個あたりの材料消費量は製品Aが2kg、製品Bが3kgである。材料の年間調達可能量は30,000kgであり、調達価格は300円/kgと見込まれる。
3. 製品Aと製品Bは共通の機械設備を用いて製造している。製品1個あたりの機械稼働時間は製品Aが2時間、製品Bが1時間である。なお、年間機械稼働時間は16,000時間が上限である。
4. 市場の需要量の上限は、製品Aは6,000個、製品Bは8,000個である。
5. 直接材料費以外の単位あたり変動製造原価は、製品Aが500円、製品Bが600円である。それ以外の製造原価はすべて固定費で、年間3,000,000円である。
6. 販売費及び一般管理費はすべて固定費で、年間4,800,000円である。

設問1 製品Aの単位あたり貢献利益を解答しなさい。

設問2 営業利益を最大にする製品Aと製品Bの販売数量の組合せを解答しなさい。その際、グラフを用いて解き方を説明しなさい。

設問3 材料の調達先を調査したところ、より遠方からも材料を調達できることがわかり、年間調達可能量を31,000kgに増やす案が提出された。この案を採用すると年間400,000円の追加的な輸送費の発生が見込まれる。これはすべて固定費である。この案を採用すべきか否かについて説明しなさい。

設問4 製品の設計図と製造工程を見直したところ、製品Bの製造に必要な材料が製品1個あたり2.4kgへと減少した。この仮定のもとで営業利益を最大にする製品Aと製品Bの生産数量の組合せを選択した場合について、営業利益を解答しなさい。その際、グラフを用いて解き方を説明しなさい。



受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

第1問

問1

設問1

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問2

設問3

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

問2

設問1

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問2

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問3

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問4

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

受験番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

第2問

問1

銀行勘定調整表

(単位:円)

銀行残高証明書残高 ( )

(加 算) [ ] ( )

[ ] ( ) ( )

(減 算) [ ] ( )

[ ] ( )

[ ] ( ) ( )

当座預金勘定残高 ( )

問2

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮

問3

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

## 第3問

## 問 1

設問 1	円	設問 2	円	設問 3	円
設問 4	円	設問 5	円		

## 問 2

(1)	
(2)	

## 問 3

設問 1	円
設問 2	
設問 3	
設問 4	